

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	株式会社 ジェイアール東海高島屋
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
工場等の名称	ジェイアール名古屋タカシマヤ
工場等の所在地	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	百貨店
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月1日 ~ 令和6年9月29日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) JRセントラルタワーズ44階 (株)ジェイアール東海高島屋 総務部総務グループ
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-566-8009		

### 3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

#### (1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- (1) 日本百貨店協会の「環境保全に関する自主行動計画」におけるアクションプランに基づき環境負荷の低減の為、以下の項目に取り組む。
- ① LEDの導入による省エネ化  
LEDの導入により電力使用量及び維持費の削減。
  - ② 「スマートラッピング」の普及促進  
マイバック（スマート・クール・バッグ含む）の販売により、容器包装材使用の削減に努める。
  - ③ 夏場の「冷房温度緩和」の取組み  
冷房温度の緩和、クールビズスタイル（男性従業員）での通勤を実施。
- (2) 行政と連動し、廃棄物の減量・リサイクル推進の為、分別回収の徹底を図る。  
廃棄場所においてハンガーや電気製品等の放置が散見される場合は  
ゴミ分別の周知徹底を都度図る。
- (3) 会社独自の活動として「コピー使用量の削減」に継続して取り組む。  
両面印刷、モノクロ印刷を基本とする設定に変更し、コピー使用量の削減を図る。  
また会議等でのペーパーレス化も推進する。

#### (2) 地球温暖化対策の推進体制

「環境委員会（委員長：社長）」のもと、定例会議上にて上記各活動における進捗状況を報告。（必要に応じて実績報告及び計画の検証等を実施。）  
また各部門へ周知することにより、全従業員に対し地球環境問題（温暖化対策）に対する指導・啓発活動を推進。

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		14,185	t-CO <sub>2</sub>
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		14,185

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和3年度	t-CO <sub>2</sub>	令和6年度	t-CO <sub>2</sub>	令和4年度	令和5年度	令和6年度		t-CO <sub>2</sub>	
温室効果ガス総排出量	13,853	t-CO <sub>2</sub>	13,437	t-CO <sub>2</sub>	14,251	t-CO <sub>2</sub>	14,185	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 2.9	%	▲ 2.4	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和3年度		令和6年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度		
原単位あたりの排出量									
削減率（対基準年度）				%		%		%	%
原単位あたりのみなし排出量									
削減率（対基準年度）						%		%	%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

1年中冷房している現状で令和5年度は、外気温の傾向が夏季は猛暑日が多く冬季は日中と夜間の温度差で空調負荷が多い1年であった。また省エネ対策を予定しておりましたインバータ導入の機器納期遅延が発生した事もあり、基準年度より増加した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。  
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。



(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・百貨店協会の取組みに連動し、「スマートラッピングの推進やスマートクールバッグの販売等を行った。</li> <li>・ご来店されるお客様へ上記ポスターやPOP掲示によるご案内を実施した。</li> </ul>
---

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様の混雑度に合わせた冷暖房の緩和、クールビズスタイル接客を実施した。</li> </ul>
---